

私は今回、3期めへの立候補に先立ち、自身の目指すまちづくりを5つ掲げました。

①豊かな地域教育力で子どもを育むまち ②福祉を大切にし、健康づくりに励むまち ③地元産業の活性化、情報発信に工夫を凝らしたまち ④豊かな自然環境を守り、活かすまち ⑤女性のパワー、若者のアイデアを広げるまち

今回、目指すまちづくりを掲げるにあたり、私はあえて防災という言葉は用いませんでした。

それは、2年前東北の被災地へ議会視察を行った際、私が感じた思いから派生しており、1000年に1回と言われる東日本大震災規模の災害と、100～150年に1回の地震災害は、分けて考えていかなければ、住民の気持ちが疲弊してしまい、あきらめが先に立ってしまうのではないかと、防災・減災に執着すればするほど、精神的に越えられない壁にぶつかるのではないかと、いうものでした。

そして、掲げた5つのまちづくりは全て、防災・減災対策につながると、自分自身が信じるからでもあります。

時代は変わり、今では自分の住む場所、自分の行く学校、自分の診てもらいたい病院、何もかもが選べる、選ばれる時代になっています。便利になった反面、人の絆や、支えあって生きるという概念は薄れてきています。

でも、この町で暮らしていると、ちょっとした人と人との絆にホッとすることがあります。都会では築きにくい、そういう絆を深められるのが地方の、田舎の、強みではないでしょうか。

人口7500、この規模の小さな町で、地方の切り捨てに対し、生き残りをかけて生きていくためには、町役場の努力だけでは現実的にも困難であり、これからは、何よりも町づくりに対する意識の持ち方や、地域の絆の底上げが必要になると私は考えます。

そのためにも、住民の皆さんにまちづくりへの高い参画意識を持ってもらうことが大切であり、議会や行政は必要な情報を伝え、関心を持ってもらう方法や手段を考え、努力することから始めなければなりません。

ここで暮らす多くの皆さんに、いろんな目線でいろんな思いを持ってもらうこと、それぞれが他人事ではなく、自分のこととしてその思いを、どんなことからでも行動に移してもらうことが大切になります。

そういう環境を創るために、私は議員として、皆さんの身近にいて、さまざまな思いを行政へとつないでいきたいと思えます。

困難なことにぶちあたっても、あきらめることなく、若さあふれる行動力で、住民の代表として私ならではの行政参加をしていきたいと考えています。

女性として、母としての視点で、これまでの8年間、住民の皆さまに育てていただいた経験を糧とし、今後も強い意志を持って、精一杯努めてまいりたいと考えています。

どうぞ、次の4年間に期待してください。その期待にしっかりとお応えすることをお誓いし、ご挨拶いたします。

ご清聴ありがとうございました。